

[新大学院情報TOP >](#)

○ 大学院理工学府（仮称）情報

設置予定の新大学院に関する情報を掲載しています。
本ウェブページで最新の情報をご確認ください。

※ 大学院理工学府（仮称）は平成 30年度設置予定であり、変更があります。

大学院理工学府（仮称・平成 30年度設置予定）関連ニュース

大学院理工学府（仮称・平成 30年度設置予定）関連のお知らせを集約しています。

2017/05/17 大学院理工学府（仮称・平成 30年度設置予定）の新大学院説明会資料（抜粋）を掲載しました

2017/04/24 理工学府（仮称）の設置及び環境情報学府の組織改編について【設置認可申請中】

2017/04/24 平成30年度4月入学の学生募集日程について

2017/04/24 大学院理工学府（仮称・平成30年度設置予定）の「新大学院説明会」開催のお知らせ

2017/04/24 大学院理工学府（仮称・平成30年度設置予定）情報の掲載を開始しました

2017/04/24 【プレスリリース】「YNUプロジェクトG」始動！

2017/04/04 平成30年度4月以降の入学試験における外国語試験（英語）に関するお知らせを掲載しました

[YNU](#) → [ニュース&インフォメーション](#) → [理工学府（仮称）の設置及び環境情報学府の組織改編について](#) 【設置認可申請中】

理工学府（仮称）の設置及び環境情報学府の組織改編について【設置認可申請中】

[戻る](#)
[印刷](#)

本学では、21世紀のグローバル新時代に求められる広い専門性を持った実践的人材を育成する取り組みを一層充実させるため、50年ぶりの新設学部となる「都市科学部」の設置をはじめ、既存の全4学部においても組織改編を行い、本年4月から新たな学部教育をスタートさせました（YNUプロジェクト）。

この度、**YNUプロジェクトの第2弾として本学大学院の教育改革を計画（YNUプロジェクトG）し、理工学府（仮称）の設置及び環境情報学府の組織改編を文部科学省に申請（設置計画書の提出）しました。** これにより平成30年度から理工学府（仮称）及び環境情報学府において社会のニーズに即した新たな教育プログラムを実施し、多様な業界で新しい価値の創造や技術革新を導くことのできる付加価値の高い人材の育成に取り組んでいきます。

『YNUプロジェクトG』の基本方針

2018年（平成30年）4月に向け工学府及び環境情報学府の大学院組織改編を行い、理工学部及び都市科学部で育成する人材の受け皿となる体制を構築するとともに、第三次産業を含む多様な業界で新しい価値の創造や技術革新を導く付加価値の高い人材育成機能を強化する。

この取り組みを「YNUプロジェクトG（YNU Project for Graduate Schools）」と位置付け大学院教育改革を強力に推進する。

各学府の詳細について

理工学府（仮称）の設置についてはこちらをご覧ください。 [🔗](#)

環境情報学府の組織改編についてはこちらをご覧ください。 [🔗](#)


※理工学府（仮称）の設置及び環境情報学府の組織改編は予定であり、変更する場合があります。

[🔼 ページの先頭へ](#)

ニュース&インフォメーション

- [▶ ニュース一覧](#)
- [▶ ニュースバックナンバー（2016年度）](#)
- [▶ ニュースバックナンバー（2015年度）](#)
- [▶ ニュースバックナンバー（2014年度）](#)


ダウンロードセンター
 ダウンロード資料一覧


サーチセンター
 サイト内データベース一覧

PEDプログラム 在学生の方

ニュース&インフォメーション

[目一覧へ](#)

すべて	▼ 重要なお知らせ	▼ ニュース	▼ イベント	▼ 番組表	▼ その他
2016.04.01	重要	PEDオリエンテーションのお知らせ (4月5日)			
2015.04.01	重要	PEDオリエンテーションのお知らせ (4月3日)			
2014.04.04	重要	選択必修科目の受講許可者が決定しました			
2014.04.04	重要	Presentaion Englishのクラス表を更新しました			
2014.04.01	重要	PEDオリエンテーションのお知らせ (4月3日)			
2014.04.01	ニュース	ウェブサイトを公開しました			

先輩の声
Impressions of graduate students

アンケート集計結果
Publication of the questionnaire results

社会人学生の方へ
To the working student

生涯メールアドレス
登録のお願い YNU Ner / Career Service

PEDマネジメント室公式
facebook
フェイスブック
はじめました!
講義やイベント情報などを
配信中です クリック いいね! お願いします!

受験生 (大学院進学希望)の方はこちらへ
YNU 工学府 PEDプログラム

資料・様式ダウンロード

▶ PEDプログラム 入学してから修了するまでの提出物について

サポート

▶ 準備中

その他

▶ 準備中

🏠 ページの先頭へ

基礎科目の紹介

- ▶ Presentation English
- ▶ プロフェッショナルエンジニアI
- ▶ プロフェッショナルエンジニアII
- ▶ グローバル企業における効果的な事業計画策定
- ▶ プロジェクトマネジメントI・II
(旧 プロジェクトマネジメント / 研究企画能力育成エンジニアリングスタジオ)
- ▶ Professional Ethics in EU & US
- ▶ リスクマネジメントのための技術者倫理
- ▶ イノベーションと課題発見I・II (旧 イノベーションと起業)
- ▶ 研究企画能力育成バイオインターストリースタジオ

先輩の声
Impressions of graduate students

アンケート集計結果
Publication of the questionnaire results

社会人学生の方へ
To the working student

生涯メールアドレス
登録のお願い YNU Net Address Service

Presentation English

■担当教員

安藤 吉隆

■授業タイトル

「明るく 楽しく 元気良く」をモットーに、社会に出て直ぐ役立つ企業ビジネス英語を双方向性の対話形式で学ぶ。全員参加で世界へチャレンジ!!

■授業の目的

日本の現状及び将来に鑑みて、日本を含む世界という常に化する国際社会で、これから活躍する実務家型の技術者・研究者にとり不可欠な"Presentation English"の実用・実践能力と技法を修得するのがねらいです。具体的には中～上級ビジネス英語・米語を基盤に"Business Communication Skill"と"Presentation Ability"の向上、高揚を目的としています。

■授業方法

1クラス15～20名程度で構成し、授業は質疑応答を含め全員参加の双方向性を目指します。最終講義ではStand-up Presentation (5分間、PowerPoint併用)を実施します。

■履修目標・到達目標

授業のねらいを全体目標に各受講者の自発的、積極果敢な挑戦意欲を引き出して授業を展開し、日本企業社会入社後2～3年目の実務家レベル到達を履修目標とします。

■開講時期

通年 (春学期 4クラス、秋学期 2クラス)



↑ ページの先頭へ

プロフェッショナルエンジニアI

■担当教員

岩熊 眞起、齊藤義順、佐藤 国仁、橋本 義平

■授業タイトル

組織をはなれてもただの人にならない！

■授業の目的

公益社団法人日本技術士会の修習技術者支援プログラムをベースに横浜国大にマッチした技術者育成カリキュラムを開発しました。本履修生は大学院で学ぶ専門知識に加え、プロフェッショナル技術者になる為の横断的素養を掴む事を目的としています。

※前、後期いずれかでも受講可能です。

■授業方法

主に講義とチームによるケーススタディー演習を行います。

■履修目標・到達目標

1. 世界で通用するプロフェッショナル技術者とは何か。どうすれば自立したエンジニアになれるか。
2. 自分の専門をどう実業の社会で活かせるか、各産業の実態を知り、そこに自分をアプライしてみる。
3. 企業、研究所等社会組織が要求する大学院卒技術者・研究者に必要な素養を育成する。
4. ケーススタディーを通し、先輩技術者・研究者と接し自己のキャリア形成のベースを作る。

■開講時期

春学期



[↑ ページの先頭へ](#)

プロフェッショナルエンジニアII

■担当教員

岩熊 眞起、齊藤義順、佐藤 国仁、橋本 義平

■授業タイトル

■授業の目的

後期は主に日本技術士会修習技術者支援実行委員会が開催する修習技術者研修セミナー（11月第2週実施予定）を中心とし、社会に出てから必要となる業務能力の研修を行います。

修習技術者研修セミナーでは社会人技術者と交流し、今、学んでいる学問が現実の課題とどう繋がっているのか等体験を通して学びます。合宿時のテーマは未定ですが、学習の観点は次の通りです。

1. 技術者としてどう自分のキャリアを形成していくか。
2. 業務遂行時のポイント、専門知識を活かす力、リーダーシップ、倫理観の醸成など社会との狭間で問題にぶつかった時どうするか。
3. グローバル化が進む社会で、世界の技術者は今何を考えているのか。

修習技術者研修セミナー参加後のフォローアップでは、講師の多くの業務体験の中からのアドバイスがあります。

※春学期の「プロフェッショナルエンジニアI」を受講していない方も受講可能です。

※修習技術者研修セミナーの内容については、10月に公開されます。

■授業方法

修習技術者研修セミナー（2日間）を主とし、オリエンテーション、フォローアップ講義を含んだ集中講義の形式となります。討議・グループワーク・プレゼンテーションを重視し早期に自立性が育つよう工夫しています。

■履修目標・到達目標

1. 世界で通用するプロフェッショナル技術者とは何か。どうすれば自立したエンジニアになれるか。
2. 自分の専門をどう実業の社会で活かせるか、各産業の実態を知り、そこに自分をアプライしてみる。
3. 企業、研究所等社会組織が要求する大学院卒技術者・研究者に必要な素養を育成する。
4. ケーススタディーを通し、先輩技術者・研究者と接し自己のキャリア形成のベースを作る。

■開講時期

秋学期

グローバル企業における効果的な事業計画策定

■担当教員

日本ヒルティ株式会社

■授業タイトル

■授業の目的

人、物、金、情報という経営に必要な資源を効率的に運用するには、経営者を代表とするマネジメントチームは当然ながら、今では中間管理職も管理する部門、課単位での効果的な事業計画を策定する能力を習得し、発揮しなければなりません。本講義を通じ、技術者としてのキャリアパスだけでなく、技術部門の管理職、あるいは経営者を目指す学生に欧州のメーカー系世界（グローバル）企業における事業計画策定プロセスを講義とワークショップの双方の形式で進めそれぞれの事業計画を実際に策定することで、基本的策定プロセスを体験することを目標とします。

■授業方法

授業は講義、ディスカッション、演習形式の組み合わせで進めます。
最終日には、日本ヒルティ株式会社役員に向け、プレゼンテーションを行います。

■履修目標・到達目標

チームリーダーとして必要な「効率的な事業計画」策定プロセスの習得を履修目標とします。

■開講時期

春学期



[↑ ページの先頭へ](#)

プロジェクトマネジメントI・II (旧 プロジェクトマネジメント / 研究企画能力育成エンジニアリングスタジオ)

■担当教員

小泉 裕

■授業タイトル

■授業の目的

プロジェクト・マネジメントは、企業の生産活動の中で、当該プロジェクトを総合的に管理し、定められた種々の条件をクリアするとともに、効率的な完遂を実現するために不可欠な手法です。本授業では、プロジェクトの各フェーズに必要とされるリソース（技術、人、もの、資金、時間、情報）の管理を実務とするプロジェクトエンジニアの理解を目的として、その統括的な管理手法の基礎を学習するとともに、石油・ガス、エネルギー等のプラントの設計・調達・建設における具体的な適用事例を示します。

講義部はプロジェクト マネジメントと同時に実施し、ワークショップを含む実習部分は9月第2週に実施します。

※前期のみの受講も可能です。後期は前期を受講した方のみ受講可能です。

■授業方法

前期は講義形式を主に、LEGOブロックを用いたグループ演習を2回実施します。
後期はエンジニアリング協会（ENAA）主催のエンジニアリング体験セミナーに参加し、ワークショップや施設見学・企業訪問を行います。

■履修目標・到達目標

統括的な管理、制約のある条件のもとで解探索、そして効率的な完遂を実現できる能力を修得することを目標とします。

本科目を修了した方には、エンジニアリング協会より受講人証書が付与されます。

■開講時期

春学期

※エンジニアリングスタジオのワークショップは秋学期に開催されますが、履修登録は春学期にしてください。



[↑ ページの先頭へ](#)

Professional Ethics in EU & US

■担当教員

北川 達夫、 稲田 正俊、 大塚 剛宏

■授業タイトル

■授業の目的

倫理(ethics)は法(law)や道徳(moral)とは異なるものです。我が国のこれまでの教育風土やマスメディア情報からは、国際社会における法-倫理-道徳の構造を理解せずにグローバルビジネスの frontline に立ってしまうことを恐れ、この科目を設置しました。

倫理とは、置かれた状況(技術や科学の水準、文化や社会に対する価値観の歴史的な理解)のもとで、正しい行動選択をするためにはどのような行動をとったらよいかを「考えるための道筋」を示すものです。この定義からでも、倫理と道徳とが異なることが理解できると思います。

■授業方法

本科目は、3名の講師が5回ずつ講義を担当します。

- 1) 「考えるための道筋」とそれを相手に説明する能力の水準
北川 達夫氏：日本フィンランドメソッド普及協会会長
- 2) 産業の舞台で法が現れる瞬間
稲田 正俊氏：住友商事 法務部長、常務執行役員を経て、ALCC株式会社 社長
- 3) 原子力発電産業における規制 (regulation) と基準 (standard)
大塚 剛宏氏：独立行政法人 原子力安全基盤機構を経て、OECD/NEA (パリ本部) MDEP/VIC WG 日本委員

授業は講義、ディスカッション形式の組み合わせで進めます。

■履修目標・到達目標

「考えるための道筋」を修得。「倫理」が示す道筋に沿った考えや、「倫理」の産物、法と規範(regulation)や規準(standard)を考えることで、倫理と道徳とが異なることが理解できるようになる。

■開講時期

春学期



[↑ ページの先頭へ](#)

リスクマネジメントのための技術者倫理

■担当教員

高田 一

■授業タイトル

■授業の目的

技術者が社会に果たす責任として最も重要なことは、科学技術のもたらす危害を防ぐことです。そのためには、技術者として知識と創造力に裏打ちされた誇りを持ち、倫理観に則って行動することが求められています。我が国の技術者の多くは、企業（組織）に所属しており、企業が社会に対して責任を果たすためには、利潤確保が必要であり、そのための「リスクマネジメント」が必須となっています。

本講義では、各技術分野の具体的な事例を取り上げ、そこでの技術リスクと技術者の行動についての討論を通して、技術者倫理とリスクマネジメントを学びます。

■授業方法

技術者の社会的立場について講義し、また、事例やケースを例題に倫理的課題を抽出し、議論しながら、倫理的考え方を身につけます。

■履修目標・到達目標

技術者の社会的責任について理解し、新しい局面や種々のケースに遭遇したとき、また、ジレンマに落ちいったとき、技術者としていかに倫理的行動をすべきか、判断できる能力を身につけることを目標とします。

■開講時期

春学期

[↑ ページの先頭へ](#)

イノベーションと課題発見I・II (旧 イノベーションと起業)

■担当教員

羽路 伸夫

■授業タイトル

自分の目で見て、自ら積極的に学んで、ものごとの真実を確認しましょう。

■授業の目的

本講義は、ベンチャーマインドを持った人材養成をめざした新しい工学教育の一環です。特色の一つは、新しい技術イノベーションと起業に伴う問題を、ベンチャー起業や企業経営に関して民間の第一線で活躍しているエキスパート群に講義をお願いしていることで、講師の実体験に基づく話と討論がなされます。

二つ目の特色は、一方的な受身の講義だけでなく、受講者数名ごとにチームをつくり、実際のベンチャー企業を訪問し直接起業家へのヒアリング調査を行うこと、更にアイデアを出し合いビジネスプランをまとめ上げるクリエイティブな作業を行なうことです。

最後は講師陣を前にした講評会での発表となります。

■履修目標・到達目標

①ベンチャーマインドの醸成ができるようになる。

②コミュニケーション力、広い視野からの問題解決力、プレゼンテーション力が向上する。

■開講時期

春学期

[↑ ページの先頭へ](#)

研究企画能力育成バイオインタースタジオ

■担当教員

小泉 淳一

■授業タイトル

■授業の目的

進展の著しいバイオインダストリーにおいては、グローバルプレーヤーを目指すことは当然となってきました。グローバルな研究事業を自立的に技術者・研究者として遂行するためには、それぞれの場において、先端知識修得に加え、様々な要素が必須です。本スタジオでは、バイオインダストリー協会の協力を得て、グローバル企業水準で要求される様々を、企業内で実際に行われている視点とプロセスで学習し、産業界においても通用する研究企画能力を育成することが目標です。

本講義は、バイオインダストリー協会と東京工業大学の協力の下、実施されます。

インターンシップ研修を含む講義概要と講義スケジュールは、ガイダンス時に配布されます。

■授業方法

講義は東京工業大学 すすかけ台キャンパス で行われます。

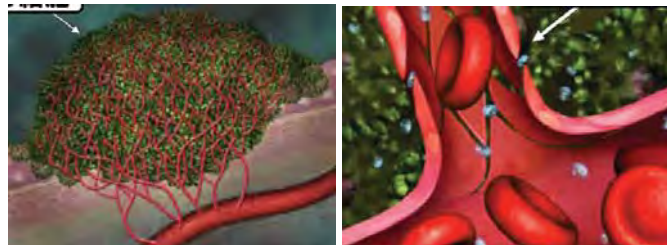
バイオインダストリー協会並びに各ステージに応じた各企業からの協力者と受講生のディスカッションにより、各ステージに必要な訓練が為されます。

■履修目標・到達目標

グローバルプレイヤーとして、研究シーズを、事業化・製品化へと進める最初のステップを、社会的合理性をもって乗り越える能力を獲得する。

■開講時期

春学期



[↑ ページの先頭へ](#)



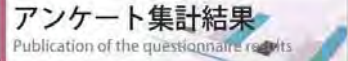
横浜国立大学

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5

©YNU

PEDの軌跡

横浜国立大学は大学院工学府において、分野融合型科学技術に対応できる広い視野を持ち、産業界で即戦力となる「実務家型技術者・研究者」を育成する新しい大学院教育プログラム、π型技術者・研究者育成工学系大学院教育(PED)プログラムを、平成19年4月に開発・導入いたしました。このプログラムは、平成17年度文部科学省海外先進教育実践支援事業「イノベーションを指向した工学系大学院教育」において米国と英国の新しい大学院教育システムを視察・調査した成果等を加味して構築された横浜国立大学独自の教育プログラムです。



2007

2008

2009

2010 2011

2012

2013

工学府 PED 教育プログラム設置

・ 欧米先進事例の調査と産業界へのニーズ調査
 ・ 海外先進教育実践支援事業「イノベーションを指向した工学系大学院教育プログラムの開発」
 ・ 工学府教育品質WG「工学府教育の基盤と改善に向けて」／教育レジジョンWG「学生の視点からの教育改革」
 ・ 工学府教育品質WG・教育レジジョンWGによる検討
 ・ 工学府教育品質WG会議においてπ型教育プログラム開発着手

専攻	定員	M	S
機能発現工学	20名	5名	
システム工学	12名	5名	
社会空間工学	20名	2名	
物理情報工学	10名	5名	
	62名	17名	



専攻	定員	M	S
機能発現工学	32名	5名	
システム工学	25名	5名	
物理情報工学	25名	5名	
	82名	15名	



横浜国立大学 大学院工学府 PEDプログラムの軌跡 2004-2013

イノベーションを担う課題解決型スタジアム（正体）教育 - 産学連携による実務家型教育プログラム開発 -

グローバルな実務家型技術者・研究者養成教育プログラムの開発
 - 欧米型ビジネスに裏付けされた基盤教育と課題解決型教育 -

プロフェッション（高度専門職業）としての
 大学院工学教育



受賞歴

2013年（平成25年） 5月 28日 関東工学教育賞 受賞

2013年（平成25年） 8月 29日 工学教育賞 受賞

入学者数・修了者数（表）

開設当初、62名であった博士課程前期の定員は、産業界と連携し、また社会の要求に応じて専門性を強化した人材育成教育機能が認められ、平成23年度には3専攻で40名の増員が認められました。

博士課程後期では、柔軟性あるカリキュラムであるため就業中の社会人の学修需要に応えることができ、学位取得者(51名)の90%以上が社会人という特徴ある成果も得られています。

注1 平成25年度10月時点のデータです。

博士課程前期

入学年度		専攻・コース名									合計
		先端発現工学		システム統合工学			社会空間システム学		物理情報工学		
		先端物質	物質エネ	機械	海洋宇宙	材料	建設	建築学	電電ネット	物理工学	
平成19年度 (2007年度)	入学者	15	14	7	4	3	5	21	4	3	74
	修了者	15	13	7	4	2	4	21	4	2	72
平成20年度 (2008年度)	入学者	10	12	3	4	1	4	20(2)	2(1)	3	59(3)
	修了者	10	12	3	4	1	4	18	2	3	57
平成21年度 (2009年度)	入学者	10	18	6	3	1	1	19(2)	8	3	69(2)
	修了者	10	17	6	3	1	1	19	8	2	67
平成22年度 (2010年度)	入学者	12	18	5	4	2	3	16(1)	9	3	72(1)
	修了者	12	16	5	4	2	3	16	7	3	68
平成23年度 (2011年度)	入学者	9	19(1)	12	6	4	-	-	19	7	76(1)
	修了者	9	17	12	6	4	-	-	17	7	72
平成24年度 (2012年度)	入学者	17(1)	17	15	7	4	-	-	16	7(1)	83(2)
	修了者	0	0	1(1)	0	0	-	-	0	0	1(1)
平成25年度 (2013年度)	入学者	17	17	17	6	4(1)	-	-	24(1)	8	93(2)
	修了者	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0

博士課程後期

入学年度		専攻・コース名									合計
		先端発現工学		システム統合工学			社会空間システム学		物理情報工学		
		先端物質	物質エネ	機械	海洋宇宙	材料	建設	建築学	電電ネット	物理工学	
平成19年度 (2007年度)	入学者	2	5	1	2	2	1	3	4	2	22
	修了者	1	5(1)	1	2(2)	2	1	2(2)	4(1)	2(2)	20(8)
平成20年度 (2008年度)	入学者	2	6(2)	1(1)	1	0	0	0	4(2)	1(1)	15(6)
	修了者	2(2)	5(3)	0	1(1)	0	0	0	4	1(1)	13(7)
平成21年度 (2009年度)	入学者	2	7(2)	0	1	0	0	2	2	0	14(2)
	修了者	2(1)	4(4)	0	1	0	0	2	1	0	10(5)
平成22年度 (2010年度)	入学者	3	3(2)	0	0	0	0	1	2	1	10(2)
	修了者	3(1)	1(1)	1	0	0	0	1	1	1	8(2)
平成23年度 (2011年度)	入学者	3	4	4	0	3	-	-	1	1	16
	修了者	2(2)	1(1)	1(1)	0	0	-	-	0	0	4(4)
平成24年度 (2012年度)	入学者	3(1)	2	2(1)	0	2(1)	-	-	4(2)	1	14(5)
	修了者	0	1	0	0	0	-	-	0	0	1(1)
平成25年度 (2013年度)	入学者	7(4)	5(3)	3	1	0	-	-	0	1	17(7)
	修了者	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0

※入学者数、括弧内の数値は10月入学者数です。

※修了者数、括弧内の数値は早期修了者数です。

※社会空間システム工学専攻は、平成23年度4月より工学部から都市イノベーション学府へ移行いたしました。

※表中のコース名は略名です。正式名称は下記の通りです。

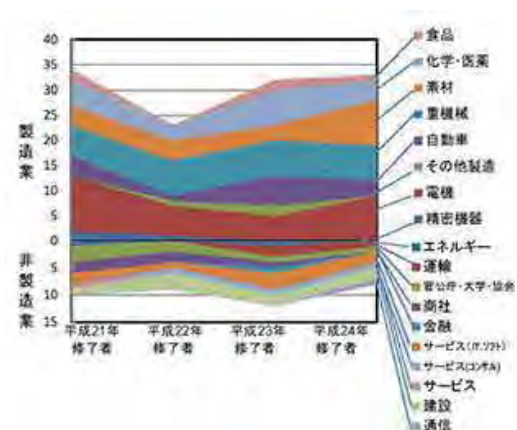
【コース正式名称】

- 先端物質・・・先端物質化学
- 物質エネ・・・物質とエネルギーの創生工学
- 機械・・・機械システム工学
- 海洋宇宙・・・海洋宇宙システム工学
- 材料・・・材料設計工学
- 建設・・・建設システム工学
- 建築学・・・建築学
- 電電ネット・・・電気電子ネットワーク
- 物理工学・・・物理工学

就職先 (表&グラフ)

PED教育プログラムの博士課程前期(増員後 入学定員82)修了後、100%の修了生が就業しております。また、設置の目的のとおり、製造業就業率は高く産業の中核を担っています。

	平成21年度 (2009年度)	平成22年度 (2010年度)	平成23年度 (2011年度)	平成24年度 (2012年度)
▼ 製造業				
精密機器	2	1	0	0
電機	11	6	5	9
その他製造	0	1	2	0
自動車	4	1	6	3
農林業	6	7	7	7
素材	4	4	3	9
化学・医薬	5	3	7	4
食品	2	0	2	1
製造業計	34	23	32	33
▼ 非製造業				
エネルギー	1	0	1	0
運輸	0	0	2	1
官公庁・大学・協会	3	2	1	1
商社	2	2	1	0
金融	0	0	1	0
サービス(IT/ソフト)	2	1	3	2
サービス(コンサル)	0	1	1	1
サービス	1	0	0	0
建設	1	3	2	2
通信	0	0	0	1
非製造業計	10	9	12	8



[↑ ページの先頭へ](#)



横浜国立大学

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5

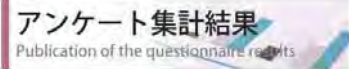
©YNU

PEDマネジメント室の紹介

平成19年4月の開設と同時に、PEDプログラムの円滑な運営、変化する社会や学生の動向に適応した教育プログラムの進化・改革の企画、そしてそれらを実際の教育内容として実体化させることを目的とし、複数の専攻から特別に組織した教職員団でPEDマネジメント部を設置いたしました。PEDマネジメント部は次の人員で構成され、工学研究院長(工学府長)の指揮・監督のもと、各専攻と大学院教務・留学生委員会の協力を得て活動しております。

(平成27年4月時点)

職名	主所属	氏名
教授・PEDマネジメント部部长	大学院工学研究院 機能の創生部門	こいずみ じゅんいち 小泉 淳一
教授	大学院工学研究院 機能の創生部門	おかざき しんじ 岡崎 慎司
講師	大学院工学研究院 システムの創生部門	いとう こういちろう 伊藤 光一郎
講師	大学院工学研究院 機能の創生部門	よこやま たかし 横山 隆
特別研究教員	大学院工学研究院 機能の創生部門	いとう だいすけ 伊藤 大輔
助手	大学院工学研究院 機能の創生部門	たなか みかこ 田中 美香子
助教	大学院工学研究院 システムの創生部門	もろくま たかゆき 諸隈 崇幸
非常勤事務職員	理工学系大学院等事務部	いわさき まいこ 岩崎 麻依子
非常勤事務職員	理工学系大学院等事務部	つる りえこ 都留 理恵子



【PEDマネジメント部の主な活動内容】

- ▶ 海外招聘研究者グローバル英語科目（国際連携教育）の開設。【平成20年度から22年度まで】
- ▶ 海外長期インターンシップの単位化と渡航援助原資の獲得。【平成20年度から】
- ▶ 研究企画能力育成に特化したスタジオ科目（産学連携教育）の開設。【平成22年度から順次開設】
- ▶ プロフェッションとしての教育を目的とした講義科目群の企画、実体化。【平成22年度から順次開設】
- ▶ 学生交流会 特別講演会の開催。【平成20年度から定期開催】
- ▶ 学生交流会 Luncheon Meetingの開催。【平成25年度から毎月開催】
- ▶ 修了生就職先へのアンケートおよび訪問インタビューの実施。【平成25年度から】

事務室のご案内

[問い合わせ先] PEDマネジメント室 岩崎、佐野
TEL : 045-339-3809 (内線 : 3809)
E-mail : ped@ml.ynu.ac.jp
窓口 : 平日 10:00~17:00 (昼休み 12:45~13:45)



正門までのルートおよび入構方法につきましては、横浜国立大学ホームページのアクセス案内をご参照ください。

<http://www.ynu.ac.jp/access/index.html>

▼お車またはタクシーでお越しの場合：

- ▶ 正門から入講していただき、そのまま北門方向へ直進してください。
北門手前の左手に、「N6」と書かれた立て看板が設置されていますので、そこを左手に曲がり坂を上ったところが理工学系事務棟のロータリーです。
- ▶ 理工学系事務棟のロータリーから入ったフロア、および、メインストリート側の階段から入ったフロアが2階です。
- ▶ 本学への車両の入構は有料です。
入構後1時間を超える時は、入構料金のお支払いをお願い致します。
(300円/60分、以降20分ごと100円)
- ▶ 講義などでお越しの場合には、臨時入構カード（1日無料券）をお渡ししております。
入構時には正門ゲートで発行される臨時入構カードをお取りいただき、退構する際には1日無料券を挿入して出構してください。

▼バスでお越しの場合：

- ▶ 理工学系事務棟の最寄りのバス停は下記の通りです。
学内バス：国大西、国大北
休日：釜台住宅第1、釜台住宅第2、ひじりが丘
- ▶ ひじりが丘からお越しの場合には、北門からお入りください。
北門から直進し、突き当りを左に曲がってください。右手に「N6」と書かれた立て看板が設置されていますので、看板手前を右手に曲がり坂を上ったところが理工学系事務棟です。
- ▶ 釜台住宅第1、釜台住宅第2からお越しの場合には、西門からお入りください。
西門を左手に進み、コンビニ（ローソン）を右手に曲がってください。
メインストリートを直進すると左手に理工学系事務棟がございます。階段を上って2階フロアからお入りください。
- ▶ バスの時刻表および路線図は、横浜国立大学ホームページアクセス案内をご参照ください。
<http://www.ynu.ac.jp/access/bus.html>

▼電車でお越しの場合：

- ▶ 横浜国立大学までの最寄り駅は下記の通りです。
三沢上町（横浜市営地下鉄ブルーライン）・・・徒歩約16分
和田町（相鉄線）・・・徒歩約20分
- ▶ 三沢上町からお越しの場合には、北門または東通用門からお入りください。
それぞれの門からメインストリートへ出ていただき、北門方向へ進んでください。
理工学系事務棟の手前に広場があり、その右手に理工学系事務棟がございます。
階段を上って2階フロアからお入りください。

Facebookはじめました！

<https://www.facebook.com/ynuped.since2007>

PEDマネジメント室では、2013年（H25年）より公式のFacebookページを公開いたしました。主に、PEDマネジメント室主催のイベント情報などを掲載しています。

Facebookアカウントをお持ちのPEDプログラム在学学生、修了生は是非、お友達申請と「いいね!」をお願いします。



[↑ ページの先頭へ](#)



横浜国立大学

〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-5

©YNU

PEDプログラムについてのQ&A

■ PEDプログラムについて

- Q. PEDプログラムとはどのようなものですか？また、TEDプログラムとの違いは何ですか？
- Q. PEDプログラムを選択した場合、必ずインターシップに行く必要がありますか？
- Q. どんなインターンシップでもPEDインターンシップですか？
- Q. PEDプログラムの募集定員を教えてください。
- Q. PEDプログラムの基盤科目は、PEDプログラムの学生しか受講できないのですか？

■ 履修登録について

- Q. 1モジュールを修得するには、どの科目を履修すれば良いですか？
- Q. 他専攻の科目を修了単位として履修することはできますか？
- Q. 学部時に履修した大学院科目の単位を振り替えることはできますか？
- Q. 春学期に履修したスタジオ科目の成績が記録されていません。成績はいつ記録されるのでしょうか？
- Q. 修了に必要な単位（前期：30単位、後期：9単位）を1年次にすべて履修することはできますか？

■ 学修計画書について

- Q. 「学修計画書」とはなんですか？
- Q. 学修計画書と実際の履修登録の内容が異なる場合には、学修計画書の再提出が必要ですか？
- Q. スタジオ課題名、スタジオ課題実施計画概要がまだきちんと決まっています。空欄で出しても良いですか？
- Q. 学修計画書を提出したら、それで履修登録は完了ですか？
- Q. 博士課程後期社会人です。1年で修了する予定なのですが、計画表が3年分あるのはなぜですか？3年分書かなければいけないのですか？

■ スタジオ成果物、ポートフォリオについて

- Q. スタジオ成果物、ポートフォリオとは何ですか？
- Q. スタジオ成果物、ポートフォリオはいつまでにどこへ提出すれば良いですか？
- Q. スタジオ成果物とポートフォリオの様式は決まっていますか？
- Q. 過去のスタジオ成果物、ポートフォリオを見ることはできますか？
- Q. スタジオ成果物、ポートフォリオは、なぜデータでないといけないのですか？CDではなく、USBメモリで提出しても良いですか？
- Q. スタジオ成果物の春学期・秋学期のスタジオ課題名が異なります。提出票は2枚必要ですか？
- Q. 秋入学の学生ですが、提出時期はどうなりますか？
- Q. スタジオをインターンシップで取りました。インターンシップ先との守秘義務契約の関係で、スタジオ成果物（ポートフォリオ）をPEDマネジメント室へ提出することができません。このような場合はどうすれば良いですか？

先輩の声

Impressions of graduate students

アンケート集計結果

Publication of the questionnaire results

社会人学生の方へ

To the working student

生涯メールアドレス

登録のお願い YNU Net Address Service

PEDプログラムについて

Q. PEDプログラムとはどのようなものですか？また、TEDプログラムとの違いは何ですか？

A. PEDプログラムは、多様化・高度化した産業社会の現代的課題に対応できる実務家型技術者・研究者を育成するための横浜国立大学独自の教育プログラムです。

PEDプログラム学生は、従来の研究室ではなくモジュール（モジュールについては「履修登録について」のQ&Aを参照してください）に所属します。このモジュールで、実習・演習・研修（長期インターンシップを含む）を通じたコースワークを履修し、修士論文の代わりに学修とプロジェクトの成果を集積した成果物（ポートフォリオ）をもとに修了審査が行われます。

一方、博士課程後期では、これまで通り修士論文の作成が課されますが、「高度なものづくり」を目指す事務家型技術者・研究者としての視点から論文審査されます。

Q. PEDプログラムを選択した場合、必ずインターシップに行く必要がありますか？

A. 専攻・コースにより変わってきます。たとえばシステム統合工学専攻の海洋宇宙システム工学コースでは、履修するスタジオ科目の内容としてインターンシップが設定されており、それがスタジオの単位となっています。多くのモジュールでインターンシップは義務ではありませんが、PEDプログラムでは積極的なインターンシップの活用を推奨しています。

Q. どんなインターンシップでもPEDインターンシップですか？

A. PEDインターンシップは就職活動の一環として行われることの多い、企業経験のための個人的なインターンシップとは全く別のものとして認識してください。なお、各コースにより対応が異なりますので、詳しくは指導教員の先生、コースのインターンシップ担当者等へ確認してください。

Q. PEDプログラムの募集定員を教えてください。

A. 各専攻ごとの募集定員は下記の通りです。

専攻	博士課程前期	博士課程後期
機能発現工学	3 2	5
システム統合工学	2 5	5
物理情報工学	2 5	5
計	8 2	1 5

Q. PEDプログラムの基盤科目は、PEDプログラムの学生しか受講できないのですか？

A. PED基盤科目のうち工学府共通科目にもなっているものは、TEDの学生でも受講可能です。ただし、定員を超えた場合には PEDプログラムの学生が優先となります。

[↑ ページの先頭へ](#)

履修登録について

Q. 1モジュールを修得するには、どの科目を履修すれば良いですか？

A. 学生便覧の各モジュールに記載されているスタジオ科目及び講義科目の中から、モジュール修了要件を満たす単位を履修します。

例えば、モジュール修了要件に「スタジオ 8単位かつ講義 2科目 4単位以上」と書かれている場合には、春学期、秋学期にスタジオ科目をそれぞれ 4単位ずつ履修し、各コースの講義科目の中から 2科目 4単位分を履修します。同一科目を重複して複数の専門モジュール修得に用いることはできません。モジュールを構成する講義科目は、他のコースの講義科目から選択することはできませんのでご注意ください。

Q. 他専攻の科目を修了単位として履修することはできますか？

A. モジュールの構成科目として他専攻の科目を履修することはできませんが、修了要件の 30 単位には含まれます。ただし、履修についてはモジュールマネージャおよび指導教員への確認が必要です。

Q. 学部時に履修した大学院科目の単位を振り替えることはできますか？

A. 工学部在籍中に、指導教員と科目担当教員の承認を得て、博士課程前期科目（共通科目、専攻共通科目、専攻科目）の中から 4 単位を限度として履修登録を行うことが可能です。その場合、本学工学部の卒業要件の単位には含まれなくなります。

単位認定後、大学院へ進学した際には、工学府係から単位認定証を発行してもらい、それを添えて履修登録をすることで、単位を振り替えることができます。

Q. 春学期に履修したスタジオ科目の成績が記録されていません。成績はいつ記録されるのでしょうか？

A. スタジオ科目は秋学期の成績と同時に記録されます。

Q. 修了に必要な単位（前期：30単位、後期：9単位）を1年次にすべて履修することはできますか？

A. 学務情報システム上は、1年次に修了要件の単位すべてを履修することは可能ですが、各学期にスタジオ科目と講義科目を履修していただくことを原則としています。インターンシップなどの都合により、まとめて単位を取得する場合には、指導教員の先生へご相談ください。

[↑ ページの先頭へ](#)

学修計画書について

Q. 「学修計画書」とはなんですか？

A. PEDプログラムでは、1年次5月末までに『学修計画書』の提出が義務付けられています。学修計画書は、修了までの間の履修計画を記載していただくものです。学修計画書は必ず指導教員の承認を得た上で、PEDマネジメント室へご提出ください。

Q. 学修計画書と実際の履修登録の内容が異なる場合には、学修計画書の再提出が必要ですか？

A. 学修計画書は1年次4月末時点での計画ですので、実際の履修登録と異なっても構いません。また、再提出の必要もございません。

Q. スタジオ課題名、スタジオ課題実施計画概要がまだきちんと決まっていません。空欄で出しても良いですか？

A. スタジオ課題名と実施計画概要には、現時点での想定を記入してください。空欄での提出は控えてください。

Q. 学修計画書を提出したら、それで履修登録は完了ですか？

A. 学修計画書と履修登録は別のもので、学修計画書を提出しても、履修登録はできませんので、本学学務情報システムで履修登録をしてください。

Q. 博士課程後期社会人です。1年で修了する予定なのですが、計画表が3年分あるのはなぜですか？3年分書かなければいけないのですか？

A. 学修計画書はあくまでも計画です、1年で修了する予定であっても、そのとおりに行かない場合も考えられますので、記入欄は3年分になっています。ただし、入学時の計画ですので、1年で修了する予定であれば、1年のみ記入していただき、2・3年次分は空欄で提出いただいで構いません。

[↑ ページの先頭へ](#)

スタジオ成果物、ポートフォリオについて

Q. スタジオ成果物、ポートフォリオとは何ですか？

A. スタジオ成果物は、スタジオ科目の成績の根拠となったもので、原本ではなく複写データ版を年度末に春学期と秋学期の成果物をまとめてご提出いただきます。ポートフォリオは、**118** 修了審査の根拠となったものを指しま

す。修了時に1回、こちらも原本ではなく複写データ版をご提出いただきます。

Q. スタジオ成果物、ポートフォリオはいつまでにどこへ提出すれば良いですか？

A. 修士1年のスタジオ成果物は、進級後の4月にご提出いただきます。また、修士2年（修了年度）のスタジオ成果物およびポートフォリオは修了前の3月にご提出いただきます。提出時期になりましたら、期日の詳細をメール等でご連絡させていただきます。提出先はすべてPEDマネジメント室です。PEDマネジメント室への提出は、みなさんのスタジオ成果物、ポートフォリオの保管が目的です。こちらで内容の確認や評価は行いません。

Q. スタジオ成果物とポートフォリオの様式は決まっていますか？

A. スタジオの評価はスタジオ科目の各担当教員の先生が、修了審査は審査会が行います。各研究室やコースにより、提出する様式、手順が異なりますので、PEDマネジメント室ではお答えできません。スタジオ成果物やポートフォリオの内容や様式に関することは、担当教員の先生、コースの教務委員の先生にご確認ください。

Q. 過去のスタジオ成果物、ポートフォリオを見ることはできますか？

A. 提出されたスタジオ成果物およびポートフォリオは、PED事務室で5年間保管をしております。PEDマネジメント室内でのみ閲覧可能ですが、貸出しやデータの出力、コピーは出来ません。また、一部守秘義務の関係で閲覧できないものや、モジュールマネージャの先生の許可が必要となる場合がございます。閲覧を希望される方は、時間的余裕をもって、前もってご連絡ください。

Q. スタジオ成果物、ポートフォリオは、なぜデータでないといけないのですか？CDではなく、USBメモリで提出しても良いですか？

A. PEDプログラム修士の学生全員にご提出いただくものですので、量も膨大となります。保管場所の関係からCDもしくはDVDでの提出をお願いしております。USBメモリでの提出も可能ですが、媒体の返却はできませんので、予めご了承ください。

Q. スタジオ成果物の春学期・秋学期のスタジオ課題名が異なります。提出票は2枚必要ですか？

A. 提出票1枚に、2つの課題名を記入していただいて構いません。

Q. 秋入学の学生ですが、提出時期はどうなりますか？

A. 秋入学の学生で、半期分のスタジオ成果物を提出できる方は、4月入学の学生と同じ時期にご提出ください。ポートフォリオの提出期限は修了日となります。スタジオ成果物を通年で提出される場合など、詳細は個別にご案内いたしますので、PEDマネジメント室までお問い合わせください。

Q. スタジオをインターンシップで取りました。インターンシップ先との守秘義務契約の関係で、スタジオ成果物（ポートフォリオ）をPEDマネジメント室へ提出することができません。このような場合はどうすれば良いですか？

A. スタジオ成果物（ポートフォリオ）に関し、インターンシップでの守秘義務契約や特許申請などの関係でPEDマネジメント室への提出が出来ない場合は、『成果報告提出時の守秘義務契約関連の対応』を行います。個別対応となりますので、PEDマネジメント室へご相談ください。



博士課程前期学修計画書 (PED)

平成 年 月 日

工学府長 殿

専攻

氏名

下記の通り、履修計画をたてましたので、許可してくださいようお願い致します。

博士課程前期

モジュールマナー(提出時点)

氏名

指導教員(提出時点)

氏名

平成 年度(1年次)		平成 年度(2年次)	
●モジュール名:		●モジュール名:	
●スタジオ科目名:		●スタジオ科目名:	
スタジオ課題名:		スタジオ課題名:	
スタジオ課題実施計画概要:		スタジオ課題実施計画概要:	
●モジュール構成講義科目等 講義名(単位数)・履修(予定)年度・時間割 (記入例)・■特論(2)・H28・春学期 2限		●モジュール構成講義科目 講義名(単位数)・履修(予定)年度・時間割 (記入例)・■特論(2)・H28・秋学期 2限	
.		.	
.		.	
.		.	
.		.	
.		.	
.		.	
.		.	
●PED基盤科目・その他科目 講義名・履修(予定)年度・時間割 (記入例)・▲学(2)・H28・秋学期 2限			
.			
.			
.			
.			
.			
.			

産業界で即戦力となる人材の育成を目指しています

PEDプログラムは、高度化した現代社会の多様な課題に対応できる実務家型技術者・研究者を育成するために横浜国立大学大学院工学府が開発し、平成19年4月に開設した日本最初の教育プログラムです。工学の基礎知識だけでなくPresentation Englishや長期インターンシップをはじめとする社会での活動に必要な力を獲得するためのカリキュラム、実務家型技術者・研究者としての視点からの学位審査など、産業界の即戦力となる人材育成に教育の重点が絞られています。既に多くの修士生を送り出し、その効果的な業績により平成25年には日本工学教育協会賞を受賞しています。

横浜国立大学大学院 工学府長

PEDとTEDはここが違います。

PEDプログラム Pi-type Engineering Degree

多様化・高度化した産業社会の現代的課題に対応できる実務家型技術者・研究者を育成するためのプログラムです。工学基礎知識で進級された後、専攻の専門モジュールを修得する新しいヨコハマ方式大学院教育と併せる教育方法です。そのため、修士課程前期では特定の研究室は所属せず、実習・演習・研修(長期インターンシップを含む)を週1回2コマの授業を履修し、修士論文の代わりに学術とプロジェクトの成果を集積した成果物(ポートフォリオ)を基に修士審査が行われます。一方、修士課程後期では、これまで通り修士論文の作成が課せられますが、「高度なものづくり」を目指す実務家型技術者・研究者としての視点から論文審査されます。

技術マネジメント(PED共通科目)と工学基礎知識 Presentation English(前期履修必修)

モジュール

- A** 専攻の基礎知識と実務スキルを身につけるための基礎知識(全6単位)
- B** 専攻の専門知識と実務スキルを身につけるための専門知識(全6単位)

工学基礎知識 (工学府共通科目、専攻共通科目)

専攻領域の知識を基とする
専攻の基礎知識からなる専門
的な知識と実務スキルを身につける

TEDプログラム Ti-type Engineering Degree

従来行われてきたように、研究室所属によって特定の専門分野を深く修得することが求められ、当該分野における学位論文(修士論文、博士論文)の作成が課せられます。研究者ならびに高度専門技術者を養成するためのプログラムです。

PEDプログラムの特徴



PEDプログラムのホームページを開設しました。

PEDプログラムの在学生向け、修士生向けのホームページを開設しました。PEDプログラムに関する情報を随時更新していきますので是非ご覧ください。

- ホームページメニュー
- ニュース&イベントメッセージ
- 専攻科目の紹介
- PEDの概説
- PEDマネジメント要の紹介
- PEDプログラムのO&Aなど
- 先輩の声



ホームページ
横浜国立大学 <http://www.ynu.ac.jp>
大学院工学府 <http://gakufu.eng.ynu.ac.jp>
〒240-8501 神奈川県横浜市長谷区常盤町79-5
横浜国立大学大学院 工学府 工学府棟 TEL:045-339-3817 PED事務局 TEL:045-339-3809

PEDプログラムホームページ
在学生用 <http://ped-program.ynu.ac.jp>
修士生用 <http://ped-alumni-luminae.ynu.ac.jp>

P E D

ヨコハマPEDプログラム

実務家型技術者・研究者育成 大学院教育プログラム

Pi-type Engineering Degree

国立大学法人
横浜国立大学大学院工学府

PED プログラム実施要項

平成 19 年 3 月 9 日制定

(趣旨)

- 第 1 この要項は、横浜国立大学大学院工学府規則第 2 条第 3 項の規定に基づき、Pi 型工学教育 (Pi-type Engineering Degree, 以下 PED) プログラムに関して必要な事項を定めるものとする。
- 2 この要項に定める以外は、工学府規則の定めるところによる。

(プログラムの設置)

- 第 2 機能発現工学、システム統合工学、社会空間システム学、物理情報工学の 4 専攻の PED プログラムは TED プログラムに併置される。
- 2 プログラムの開設、または改廃は、工学府教授会または工学府教授会規則第 9 条第 2 項に定めるところによる工学府代議員会の議を経て、研究院長の許可を得なければならない。

(プログラム)

- 第 3 PED プログラムは PED 基盤科目と各専攻の開設する複数のモジュールからなる。
- 2 モジュールはスタジオ科目及び講義により体系的に構成する。
- 3 スタジオ科目はプロジェクト型実習・演習・研修により構成する。
- 4 PED 基盤科目は英語・技術経営・技術者倫理・リスクマネジメント等を教授する科目とする。

(プログラム履修生)

- 第 4 PED プログラムを履修する学生 (以下、プログラム履修生) は、工学府入学者選抜時に申し出なければならない。

(博士課程前期の修了要件)

- 第 5 博士課程前期の修了要件は、学府に 2 年以上に在学し、4 以上のスタジオ科目での研究指導を含む複数のモジュール並びに所定の単位を 30 単位以上修得し、学則第 18 条第 1 項に定める特定の課題についてのポートフォリオの審査及び最終試験により判定される。
- 2 スタジオにおける研究成果をまとめ、審査対象となるものをポートフォリオとする。

(博士課程後期の修了要件)

- 第 6 博士課程後期の修了要件は、学府に 3 年 (課程前期に 2 年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における 2 年の在学期間を含む。) 以上在学し、1 モジュール以上かつ所定の単位を 9 単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験により判定される。

(短縮修了)

- 第 7 短縮修了については、各専攻・各コースの修了要件及び工学府規則第 9 条を適用する。

(履修プログラムの変更)

第 8 他プログラムの履修学生が、プログラムの変更を申し出た場合には、収容定員の範囲までは変更を認めることができる。

- 2 他プログラムの実習・演習・研修等の科目をスタジオ科目に振り替えることは、原則としてできない。

(モジュールの修得)

第 9 モジュールの修得において、スタジオ科目の修得とモジュールを構成する講義の修得とは、同じ学期に限られない。

(モジュールマネージャ)

第 10 各モジュールにモジュールマネージャをおく。

- 2 モジュールマネージャは、当該のモジュールの履修登録をしたプログラム履修生について、その在籍中、モジュール修得の指導を行う。
- 3 モジュールマネージャは、プログラム履修生の修了審査前に、モジュール取得または取得見込み証明書を、本要項第 11 で規定する PED マネジメント部に提出する。

(PED マネジメント部)

第 11 PED プログラム全般の運営管理、各種補助金事業や助成事業に対する申請・報告業務及びとりまとめ、広報を含む渉外活動全般、PED プログラムを活用した社会人教育の企画運営を行う。業務遂行にあたっては、各教育モジュールのマネージャー・大学院教務委員会・大学院入試委員会を中心とした各種委員会と連携・協力体制をとり、プログラムの円滑な運営を図る。

(PED マネジメント部の組織)

第 12 PED マネジメント部は、次の挙げる者をもって組織する。

- (1) PED マネジメント部長 1名
 - (2) 教授 1名
 - (3) 准教授 2名
 - (4) 助手、特別研究教員、研究教員又は助教 2名
 - (5) その他学府長が必要と認めた者 若干人
- 2 PED マネジメント部長は、学府長が指名し、その任期は、原則として 2 年とする。
 - 3 本条 1 項の(2)、(3)、(4)については、機能発現工学専攻またはシステム統合工学専攻の研究指導教員または研究指導補助教員を兼担することができる。

(雑則)

第 13 この要項に定めるもののほか、プログラムの実施に関し必要な事項は、別に定める。

PED プログラム実施要項（案）

平成 30 年 4 月 1 日（ ）

（趣旨）

第 1 この要項は、横浜国立大学大学院理工学府規則第 2 条第 3 項の規定に基づき、Pi 型工学教育（Pi-type Engineering Degree, 以下 PED）プログラムに関して必要な事項を定めるものとする。

2 この要項に定める以外は、理工学府規則の定めるところによる。

（プログラムの設置）

第 2 機械・材料・海洋系工学専攻、化学・生命系理工学専攻、数物・電子情報系理工学専攻の 3 専攻の PED プログラムは TED プログラム、PSD プログラムに併置される。

2 プログラムの開設、または改廃は、理工学府教授会または理工学府教授会規則第 9 条第 2 項に定めるところによる理工学府代議員会の議を経て、理工学府長の許可を得なければならない。

（プログラム）

第 3 PED プログラムは PED 基盤科目（学府共通科目の実務系（プロフェッショナル）科目群）と各専攻の開設する複数のモジュールからなる。

2 モジュールはスタジオ科目及び講義により体系的に構成する。

3 スタジオ科目はプロジェクト型実習・演習・研修により構成する。

4 PED 基盤科目は英語・技術経営・技術者倫理・リスクマネジメント等を教授する科目とする。

（プログラム履修生）

第 4 PED プログラムを履修する学生（以下、プログラム履修生）は、理工学府入学者選抜時に申し出なければならない。

（博士課程前期の修了要件）

第 5 博士課程前期の修了要件は、学府に 2 年以上に在学し、4 以上のスタジオ科目での研究指導を含む複数のモジュール並びに所定の単位を 30 単位以上修得し、学則第 18 条第 1 項に定める特定の課題についてのポートフォリオの審査及び最終試験により判定される。

2 スタジオにおける研究成果をまとめ、審査対象となるものをポートフォリオとする。

（博士課程後期の修了要件）

第 6 博士課程後期の修了要件は、学府に 3 年（課程前期に 2 年以上在学し、当該課程を修了した者にあつては、当該課程における 2 年の在学期間を含む。）以上在学し、1 モジュール以上かつ所定の単位を 9 単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験により判定される。

（短縮修了）

第 7 短縮修了については、各専攻の修了要件及び理工学府規則第 9 条を適用する。

（履修プログラムの変更）

第8 他プログラムの履修学生が、プログラムの変更を申し出た場合には、学生の履修及修了に不利にならない範囲において教授会の議を経て変更を認めることができる。

- 2 他プログラムの実習・演習・研修等の科目をスタジオ科目に振り替えることは、原則としてできない。

(モジュールの修得)

第9 モジュールの修得において、スタジオ科目の修得とモジュールを構成する講義の修得とは、同じ学期に限られない。

(モジュールマネージャ)

第10 各モジュールには、当該モジュールを構成するスタジオ科目を担当する複数指導教員の中から互選されたモジュールマネージャをとりまとめ責任者としておく。(任期は各分野内規に従うものとする。)

2 モジュールマネージャは、当該モジュールの履修登録をしたプログラム履修生がスタジオ指導教員の指導のもとに作成した学習計画書に関する指導・承認を学期の初期段階で行う。

3 在籍中、学習計画の進捗状況を確認するとともにスタジオ指導教員を通じてあるいは直接プログラム履修生に対して適宜助言を行う。

4 学期あるいはタームの期末期間にスタジオ科目の研究成果などを総括する報告会などを各分野の内規に従って企画・実施し、スタジオ指導教員との合議をもとに成績評価を行う。

(PED マネジメント部)

第11 PED プログラム全般の運営管理、各種補助金事業や助成事業に対する申請・報告業務及びとりまとめ、広報を含む渉外活動全般、PED プログラムを活用した社会人教育の企画運営を行う。業務遂行にあたっては、各教育モジュールのマネージャ・大学院教務委員会・大学院入試委員会を中心とした各種委員会と連携・協力体制をとり、プログラムの円滑な運営を図る。

(PED マネジメント部の組織)

第12 PED マネジメント部は、次の挙げる者をもって組織する

- (1) PED マネジメント部長 1名
- (2) 教授 1名
- (3) 准教授または講師 2名
- (4) 助手、特別研究教員、研究教員又は助教 2名
- (5) その他学府長が必要と認めた者 若干人

2 PED マネジメント部長は、学府長が指名し、その任期は、原則として2年とする。

3 本条1項の(2)、(3)については、各専攻の研究指導教員または研究指導補助教員を兼任することができる。

(雑則)

第13 この要項に定めるもののほか、プログラムの実施に関し必要な事項は、別に定める。